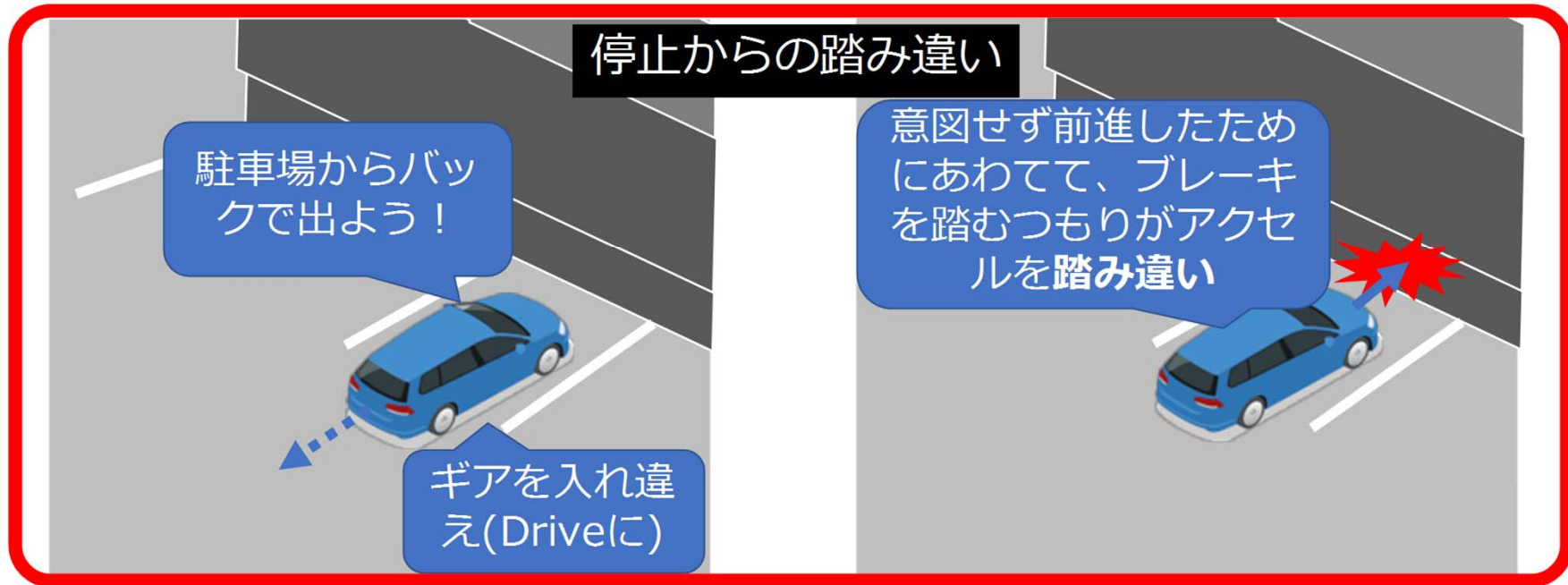


ペダル踏み間違い時加速抑制装置 の試験法・評価法に係る検討

これまでの検討の流れ

- ペダル踏み間違い時加速抑制装置の性能仕様を整理し、試験条件として設定すべき項目を決定する
- 設定する試験条件ごとの試験の再現性、装置性能のばらつきを実車実験にて確認し、試験方法や評価方法案を作成する
- 上記を踏まえ、ペダル踏み間違い時加速抑制装置のアセスメント試験および評価方法の Protokol 案を策定する

対象とする踏み間違い事故のイメージ



市場装置仕様を鑑み、また装置の普及促進の観点から、「停止から人以外の対象物(近距離に在る)に衝突する事故」を対象とする。(第2回検討会における合意事項)

評価点(期待する事故低減効果)について

停止からの踏み違い事故に対しては、発進:1.12点、後退:0.36点、合計1.48点の事故低減効果がそれぞれ見込まれる。

分析対象とした事故形態

- 対象年
 - 平成21年
- 車両種別
 - 普通車
 - 軽自動車
- 人的要因
 - アクセルとブレーキの踏み違い
- 行動類型
 - 発進
 - 後退
- 事故類型
 - 車両相互(限定なし)
 - 車両単独(以下に限定)
 - 工作物衝突
 - 駐車車両衝突

※表中の数字は、社会損失額より得点換算した値(1点:4.5億円)

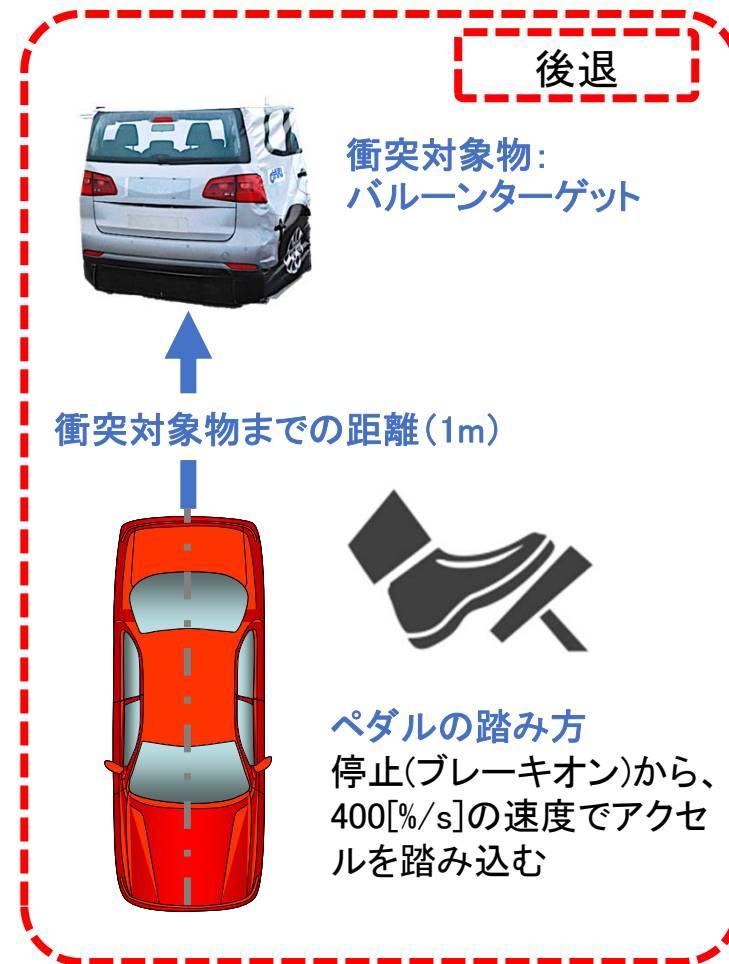
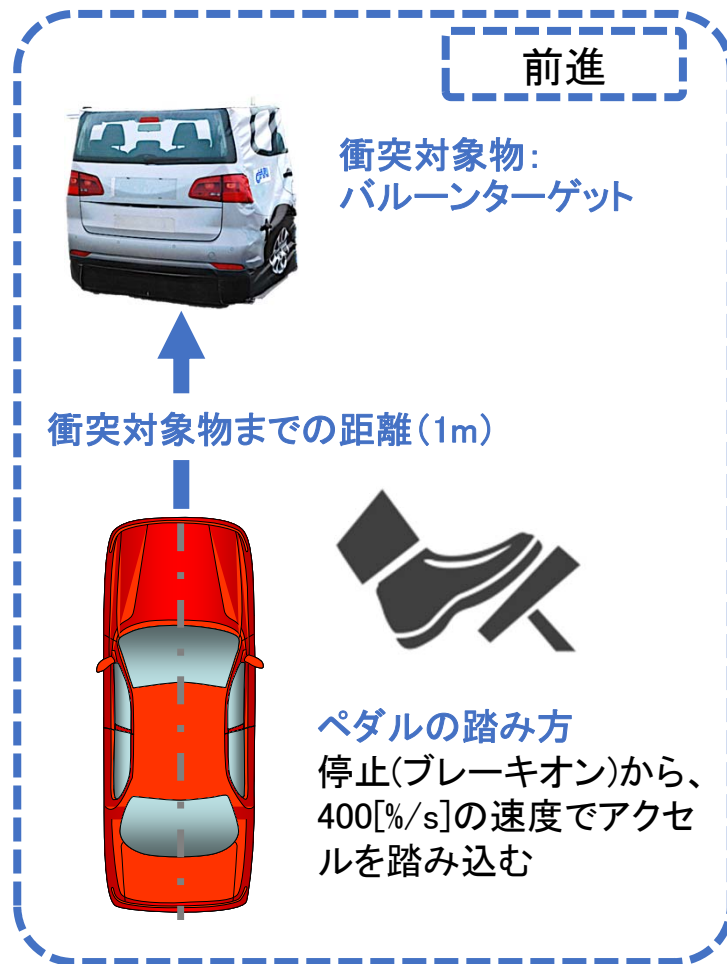
	発進	後退
車両単独	0.73	0.26
車両相互	0.39	0.10
合計	1.12 ⇒1点	0.36 ⇒1点

満点を2点とし(切り上げ)、前進1点、後退1点とする。

試験方法のイメージ

【第2回検討会での合意事項】

- ・「前進」と「後退」の両ケースについて試験を実施する
- ・試験では、停止状態から400%/s(0.25秒で全開)以上の速度でアクセルペダルを踏み込む



検討課題と結果について

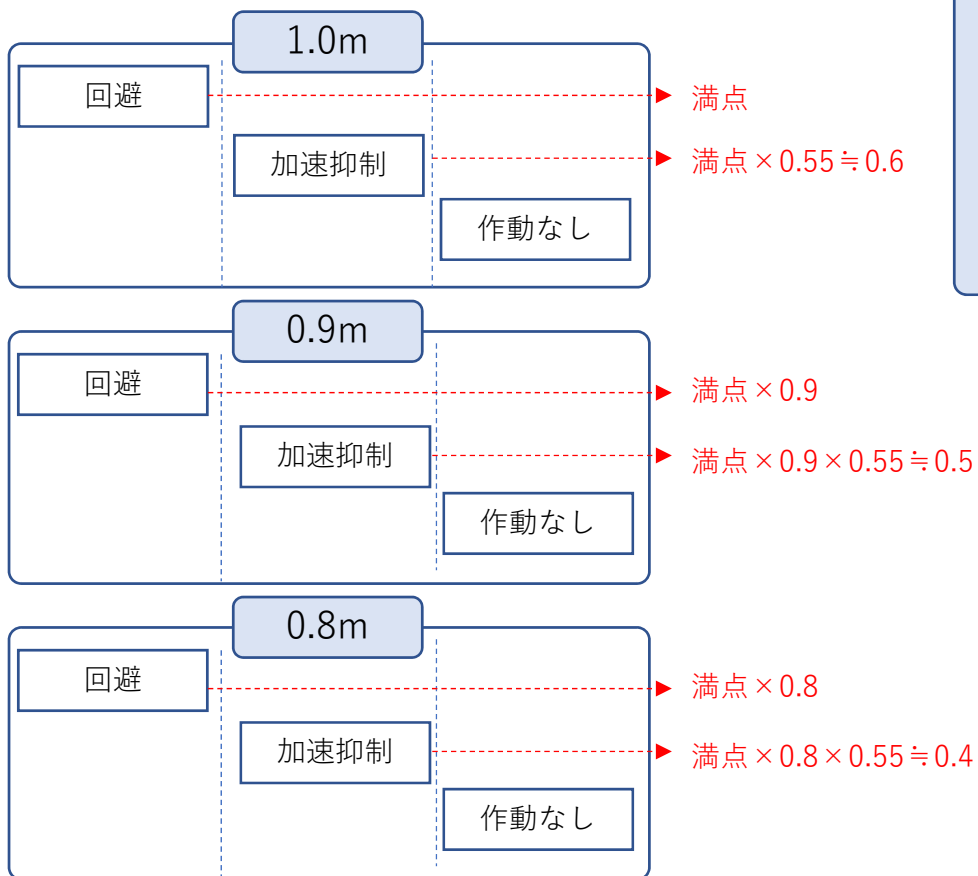
- 衝突対象物までの距離
1.0mを基本とする。
ただし、申請者の求めに応じ、1.0mより短い距離で実施した場合（0.9m、0.8m）に部分点方式を採用する
* 比較的事故件数が多い10km/h程度での衝突事故を想定
- 評価方法および評価指標
速度変化率を用いて、「衝突回避」／「加速抑制」／「作動なし」の3つの区分に分け、「衝突回避」は満点（1.0点）、「加速抑制」は部分点（一律の点数（0.6点））、「作動無し」は0点とする

衝突対象物までの距離設定と評価点について

- 1.0mを基本とし、1.0mより短い距離（0.9m、0.8m）を選択した場合には、距離に応じた部分点を付与する方式を採用する。
- 加速抑制の判定は「速度変化率」を用いることとする。

評価点付与方法

距離に応じた割合（カバー率）を「満点」に乗じる



作動判定方法

